

2019年度 第3四半期 決算のご説明

(2019年4月1日～12月31日)

再成長への転換点が見え始めた3Q
想定外の車載の減速を受け、業績は不芳し

2020年1月30日
本多通信工業株式会社
代表取締役社長 佐谷 紳一郎

Value by Connecting **HTK**



1-1. 累計19/3Qの実績

低調が継続し、大幅な減収減益、ただし分野別には変化
業績・配当予想は据え置き

単位:百万円、()内利益率

為替：期中平均	18/3Q 1\$=111円	19/3Q 109円	前年比	業績予想 107円	進捗率
売上高	13,531	11,318	84%	15,500	73%
営業利益	890 (6.6%)	208 (1.8%)	23%	450 (2.9%)	46%
経常利益	902 (6.7%)	233 (2.1%)	26%	400 (2.6%)	58%
純利益	522 (3.9%)	148 (1.3%)	28%	250 (1.6%)	59%

配当予想
21円

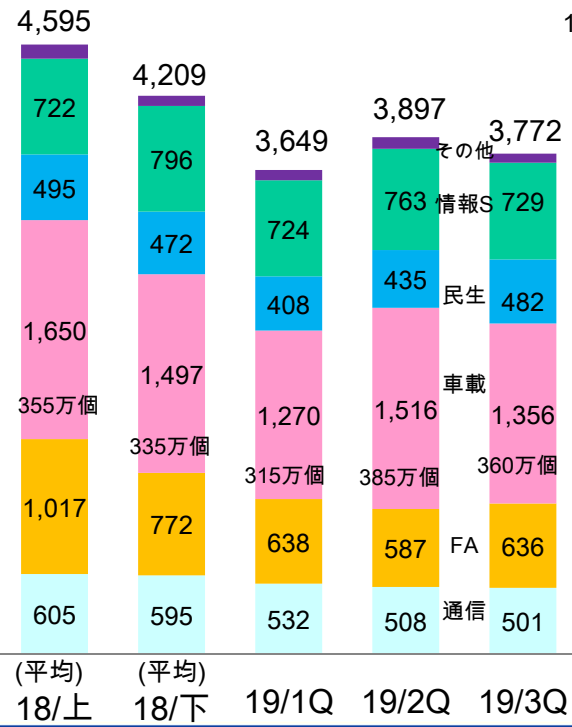
Value by Connecting **HTK**



1-2. 四半期・分野別の売上推移

転換点が見え始めた3Q
 車載は4Qも低調続くが、中期戦略は不変

単位:百万円



19/2Q比

- ▲4% SE(人手)不足により伸び切れず 年間最高業績の更新を狙う
- +11% PC更新需要により好調 高精細ストレージ SD UHS-IIを増産
- ▲11% 想定外の生産台数減により2Q比減収 3Q:10/初 4.0M個→実績 3.6M(10%↓) 低調続くが、中期戦略は不変 4Q:10/初 3.8M個→1/初 3.0M(20%↓)
- +8% 調整局面から緩やかな回復局面へ エッジ・ロングテール市場を開発
- ▲1% 5Gインフラ整備開始 光コネクタ受注が2Q比50%増 Society5.0/Connected Industriesの幕開け

4Q 動向

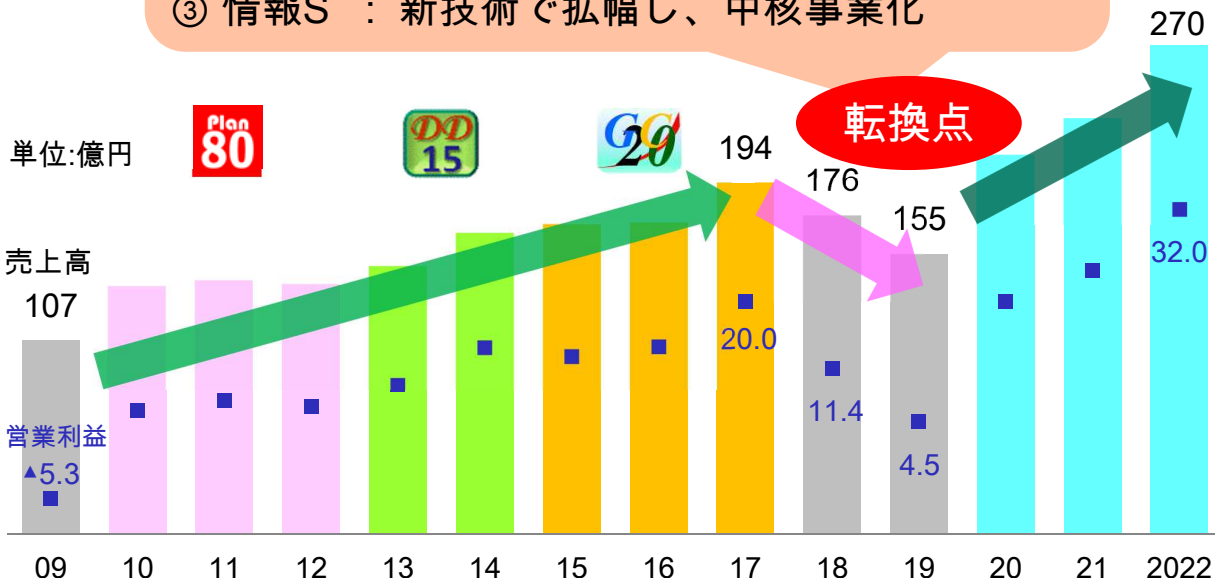


2-1. 今年度 基本方針:19年度の位置づけ

成長軌道に乗せ直す転換点づくり

繋がる社会 = Society5.0への進化を商機に

- ① 車載用 : ポートフォリオを充実させつつ、倍販
- ② 業務用 : 独自のビジネスモデルで高収益化
- ③ 情報S : 新技術で拡幅し、中核事業化





2-2. 繋がる社会=Society5.0への進化を捉える

5Gサービス開始はSociety5.0実現のトリガー
全方位で市場づくりに取り組む

5年以上続く
インフラ整備事業に対応



光コネクタ等



DC向け
ハード&ソフト

ストレージの
大容量・高速化に対応



UHS-II対応
SDソケット

全方位で
市場開発

自動運転を含む
新たなICTシステム・サービスの
出現にハードとソフトで対応



あらゆるモノが繋がる
= エッジ・ロングテールに着目
多様化する接続ニーズに対応



中少量カスタマイズサービス



2-3. 自動運転への進化を捉える

諸施策が順調に進捗、成長市場で伸ばす

◆ 技術：次世代センシングカメラ用の量産開始



22年度 1,000万個へ急拡大

◆ 販売：新体制で新部位/顧客の開拓が進展 (22年度から順次スタート)

推進中の案件

アクセサリ接続

モニタ接続

次世代ヘッドライト

電子ミラー

カメラ・センサ等

次世代車内LAN



6Gbps対応モデル

次世代ECU接続

◆ 製造：成長に備えたインフラ整備・拡充中

IATF16949取得

車載カメラ生産の
2拠点化

22年度3,000万個の
土台づくり



HTK

IRに関するお問い合わせ先

本多通信工業株式会社
 経営企画グループ
 TEL : 03-6853-5820
 URL : <https://www.htk-jp.com/>

HTK

Value by Connecting **HTK**



参考.コネクタ事業 連結受注推移

単位：%

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2019年度 前期比	+4	-1	-3	—	—
前年同期比	-20	-16	-12	—	
	1\$= 110円	107円	109円		

2018年度 前期比	-3	-6	-8	-11	-17
前年同期比	-3	-18	-20	-25	
	1\$= 109円	111円	113円	110円	111円

実勢為替レートで算出

Value by Connecting **HTK**